

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 瑞浪高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月21日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 瑞浪高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	安藤 徳善	瑞浪市日吉公民館 館長	
副会長	正村 和英	瑞浪市 総務部長	
委員	鷺尾賢一郎	瑞浪商工会議所 前会頭	(欠席)
	三輪田幸泰	瑞浪市議会 議員	
	岩島 哲也	瑞浪北中学校 校長	
	栗岡 洋美	中京学院大学短期大学部 准教授	
	田中真奈美	稲津幼稚園 園長	
	玉川 幸枝	合同会社プロトビ 代表	(欠席)
	山田 弥生	瑞浪高等学校 育友会長	(欠席)
	山田 幸男	瑞浪市教育委員会 前教育長	
オブザーバー	小川 祐輝	岐阜県議会 議員	
	水野 光二	瑞浪市 市長	(欠席)
	加藤 健二	瑞浪高等学校 同窓会長	(欠席)
学校側	伊左治錦司	校長	
	坂本 康晴	教頭	
	相賀 栄寿	事務長	
	今井 典彦	教務部長 (教務主任)	
	丸谷 利幸	進路支援部長 (進路指導主事)	
	安田 貴彦	生徒支援部長 (生徒指導主事)	
	齋木 一美	生活産業部長 (生活デザイン科主任)	
	林 尚志	県立高校地域連携コーディネーター	

### 5 会議の概要 (今年度の取組と自己評価・来年度の学校運営について)

意見1：1月に開催された「卒業制作・実践活動発表会」では、生徒が堂々とした態度で提案型の発表をしており頼もしかった。発表内容については英語や理科など普通教科に関する取組があってもよいのではないかと。来年度はより多くの保護者や地域の方に参観してもらおうとよい。

意見2：「卒業制作・実践活動発表会」は素晴らしい内容であった。この発表会を中学生が見たら大きな学びが獲得できるはずだ。来年度は中学生も参観できるよう検討してほしい。

- 意見3：本校の特色の一つが生活福祉科（生活デザイン科）の取組である。幼稚園や各学校が地域と協力して、地域の子どもたちと一緒に育てていくような取組ができるとよい。
- 意見4：生徒の意識調査アンケートの結果からも、生徒たちの自己肯定感が向上していることがうかがえる。
- 意見5：生徒支援部の自己評価に「地域と連携した活動を通して自立した生徒を育成する」という方策案があげられており、地域としてもありがたい。
- 意見6：進路支援部の自己評価に「生徒たちが進路支援の活動を自分のこととして取り組み、進路先を決定することができた」とある。その手助けとなるような地域との連携を1年次生のうちから活動に取り入れているのか。  
⇒ 1年次生の普通科では市内の各地域（今年度は大湫）の方と連携して探究学習を進めた。この体験が、進路に関する自己決定にも繋がっていくと捉えている。
- 意見7：生活デザイン科においても、将来の仕事や必要となる資格について1年次生のうちから学ぶとよい。地域とも関わりながら目標を持って取り組んでほしい。  
⇒ 生活デザイン科では「生活産業基礎」という科目を通じて1年次生の段階から職業や資格について学習を進めている。
- 意見8：生活デザイン科では、生徒の自己肯定感を向上させるためにどのような取組をしているのか。  
⇒ 1年次生の段階から検定試験などの目標を設定するとともに、地域に出て行く体験的な活動を取り入れている。地域の方々から認めてもらうことで自信を持つようになる生徒も多い。3年間の集大成である「卒業制作・実践活動発表会」に取り組むことで達成感を得て、将来に繋がる自己肯定感を育んでいる。
- 意見9：職員による自己評価だけでなく、生徒の生の声を聞くべきである。学校の主体は生徒である。学校の魅力をアピールするうえでも、生徒がどう思っているのか意見を聞き、その声を生かしてほしい。
- 意見10：入学者数が定員に満たないということは、本校に魅力がないということでもある。本校の魅力をアピールできるように方策を練ってほしい。
- 意見11：高校の魅力は進学実績によるところが大きい。成果をあげられるように、今まで以上に進学指導を充実させてほしい。
- 意見12：体験的な学びを充実させるとともに、普通教科の授業の質を向上させる必要がある。緊張感のある授業を実践してこそ真の学力が身に付くものである。
- 意見13：地域連携プロジェクトを通じて、生徒たちが自分の考えを深めて、それを発表する経験を積み重ねてきたことを評価したい。これは、大学のAO入試や将来の仕事でも求められる能力である。さらにブラッシュアップできるように取り組んでほしい。

意見14：地元から離れて進学、就職する生徒も多いが、離れてこそ地元の良さを理解できることもある。「将来、戻ってきたくなる町」になるような地域作りを一緒に進めていけるとよい。

## 6 会議のまとめ

- ・地域連携プロジェクトを柱とした体験的・主体的な学びをさらに充実させるとともに、確かな学力を身に付けられるような学習指導に取り組んでいきたい。
- ・来年度の「卒業制作・実践活動発表会」では市内の中学2年生や地域の方々にも参観していただけるように準備を進めたい。
- ・本校の魅力をPRしていくために生徒の意見も参考にしていきたい。来年度の学校運営協議会では、生徒にも出席してもらい生の声を聞く機会を設けたい。
- ・本校の教育活動を持続可能で体系的なものに再構築するために、地域との連携を大切にしながら今後も継続的に意見を募っていく。